

世界遺産アカデミー認定講師 File No.54

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第54回目は、福井県を拠点に活動されている達川 恭之^{たつがわ やすゆき}さんです。達川さんは、地域公民館の生涯学習講座や学校での講演を通じて、ユネスコや世界遺産の大切さを伝え続けています。親しみやすく温かな語り口には定評があり、FBCラジオや新聞、SNSなどのメディアでも積極的に情報発信されています。今回は、そんな達川さんにWHA認定講師としての想い、世界遺産を学ぶことの楽しさを語っていただきました。

——世界遺産との出会い、そして、学びの道のり

世界遺産に興味を持つようになったきっかけは、1996年から刊行された講談社の『ユネスコ世界遺産(全12巻+1巻)』でした。旅行好きというわけでもなく、なぜ購入したのか理由も覚えていませんが、刊行と同時に買い始め、本棚に並べていました。その後も雑誌やガイド本を眺める程度で、強い関心があったわけではありません。そんな私が、世界遺産に目を向ける転機となったのは、家庭内での“学び”の空気が影響していました。3人の娘が英検や受験に励み、妻も資格取得の勉強をしていた頃、自分だけ何もしないと感じていたのです。そんな中、妻から「何かやってみたら?」と勧められ、手に取ったのが世界遺産検定でした。最初は軽い気持ちでしたが、2・3級併願を通じてその奥深さに惹き込まれていきました。ところが1級では難解な地名や人名に苦戦。旅行経験も乏しく、現地のイメージが湧かず苦労の連続でした。文化遺産への関心が強く、人物や物語から歴史を想像するのが好きですが、国や時代を超えた“横の繋がり”を学ぶ世界遺産は、まったく異なるアプローチが必要でした。年齢とともに、記憶力にも限界を感じ、まさに“力技”の勉強。家族の応援もあり得られず、距離を取られる空気感(苦笑)。時間も費用もかかり、プレッシャーも大きかったですが、無事にマイスターに合格できました。今ではWHA認定講師として、公民館講座や娘たちの学校のPTA旅行で『古都京都の文化財』を解説し、龍安寺^{りゅうあんじ}をご案内するなど、活動の幅が広がっています。今後も、こうした機会を大切にしていきたいと思っています。



「飛鳥・藤原の宮都」の構成資産「石舞台古墳」は、蘇我 馬子の墓と伝えられる

——世界遺産が教えてくれる“ものの見方”

世界遺産を学んで良かったこと。それは、物事の見方が大きく変わったことです。ひとつの対象を多角的に捉える視点が養われました。たとえば、家族とともに訪れた二条城では、築城の構造や装飾の細部にまで注



ヴェネツィアのカナル・グランデ

目し、つい時間をかけて観察してしまいました。東寺の五重塔の壁画には目を凝らし、現地ガイドさんのお話にこれぞとばかりに耳を傾けます。平等院鳳凰堂の鳳凰像の配置や象徴性についても、同様です。先を歩く家族には「まだ?」と嘆息されることもしばしばです(苦笑)。私は眼鏡商社を営んでいますが、見えないものを見えるようにする、あるいは「見えなくても差し支えない部分を探る」という点では、世界遺産という「メガネ」を通して様々なものを見るというスタンスをとれるようになったという感じでしょうか。仕事上でも商談の場でも、お相手の立場や背景を、今まで以上に俯瞰して観るようになったように感じています。



サンタ・マリア・グロリオザ・ディ・フラーリ聖堂
ティツィアーノ作『聖母被昇天』

——印象深い訪問地とこれからの展望

世界遺産を巡る旅の中で、印象深かった場所のひとつが、ヴェネツィアです。何度訪れても飽きることがありません。サン・マルコ大聖堂やリアルト橋といった観光名所は人で溢れていますが、私が訪れた教会では、観光客の姿はなく、美しい祭壇を独り占めできるような静けさが広がっていました。また、サン・マルコ広場には霧が立ち込め、幻想的な風景が広がっていて、「また行きたい」と心から思える場所です。別の機会に訪れたラヴェンナでは世界遺産に登録されている構成資産10数件を徒歩で巡り、その足でボローニャに向かい、ポルティコを歩き倒す、という弾丸も。イタリア旅行だというのに、散策中の食はラヴェンナの駅でのマクドナルドだけ

でした。世界遺産を学んでから、見どころをすべて周ろうと、無茶をするようになりましたね(笑)。また、マカオも魅力溢れる世界遺産都市です。中国とポルトガルの文化の融合が街並みに色濃く表れていて、宗教施設や住宅など、多種多様な建物がコンパクトにまとまっている光景には感動を覚えました。

現在、注目しているのは、2026年の世界遺産登録が期待されている「飛鳥・藤原の宮都」です。日本人の心の原風景ともいえる農村地帯が広がっていて、世界遺産に登録されることで、景観が変わってしまうのではないかと心配する声もあります。アクセスの改善も含め、今後の変化に注目したいところです。



ラヴェンナのサンタポリナーレ・ヌオヴォ聖堂

世界遺産検定を通じた仲間との繋がりも、私の大きな励みです。チーム「password」では、検定対策やイベントを通じて切磋琢磨しています。全国に住むメンバーと、福井在住の私もオンラインで気軽に参加できるのがあります。特にマイスター試験の論文は、「何が正解なのか」という絶対的な正解はないのですが、限られた文字数で論理的かつ的確にまとめる力が問われ、仲間と日々、試行錯誤を重ねています。

今後は、地元・福井のユネスコ協会と連携し、学生向けの講座開催を目指しています。落語鑑賞も趣味のひとつで、出張先の寄席に足を運ぶことも。世界遺産の魅力も、寄席のライブ感のように“その場で感じる”ことが大切だと感じています。



ボローニャのマッジョーレ広場